

12-3 松本城クイズ48 二十六夜神伝説について (解答・解説)

松本城管理事務所研究室

今回は松本城の伝説のなかの、二十六夜神についてお尋ねしますのでお答え下さい。

1. 天守6階の小屋組の上に、天守の守り神として小さな祠(ほこら)がある。この祠の中に何という神が祀られているか、次の中から一つ選びなさい。.....③

天守最上階の六階には二十六夜神という小さな祠がある。祠の中には「二十六夜守護神」が祀られている。



2. 問題1の祠が祀られたのはいつごろか、次の中から一つ選びなさい。.....②

戸田家が入封(にゅうほう)した翌年の元和4年(1618)年正月26日にお告げがあり、翌月26日より毎月の例として祭祀を行うようになった。

3. 問題1の祠が祀られた頃の松本城の城主は、次のうちの誰にあたるか。一人選びなさい。.....①

元和3年に松本に城主として入封したのは、戸田康長である。元和3年(1617)高崎より入封。寛永9年(1632)松本にて没。71歳。御塚に葬られる。



戸田康長像

次の物語を読んで、——線の部分の問題に答えなさい。

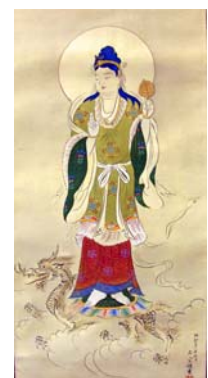
「...閏正月26日のこと、持筒頭(もちづつかしら)の武士が、天守で宿直(とのい)をしていたところ、ちょうど月が出たころ誰かが自分の名前をよんでいることに気づきました。振り向くと美しい女人が現れ、○○○○と告げ、武士に袋を授けて消えました。...」

4. 持筒頭の武士とは誰のことをいうのでしょうか。つぎの中から一人選びなさい。.....④

天守で夜中の城の守り(宿直:とのい)をしていたのは、持筒頭・川井八郎三郎清良(きよなが)であった。

5. 美しい女人とは、どんな装束(しょうぞく)をつけていたか。次の中から選びなさい。.....②

月が出る頃、何人ともわからぬ人が、八郎三郎の名前を呼ぶものがいた。緋の袴をつけた女人が立っていた。



6. 夜中の城の守りをしていた武士に、美しい女人は何と告げたのでしょうか。次の中から一つ選びなさい。・・・・・・・・・・②

袋を授けて、「これから後二十六夜を祀り、米三石三斗三升三合を焚いて祝うこと。そうしたお城は必ずさかえようぞ。またこの袋は決してあけてはなりません」といって去りました。

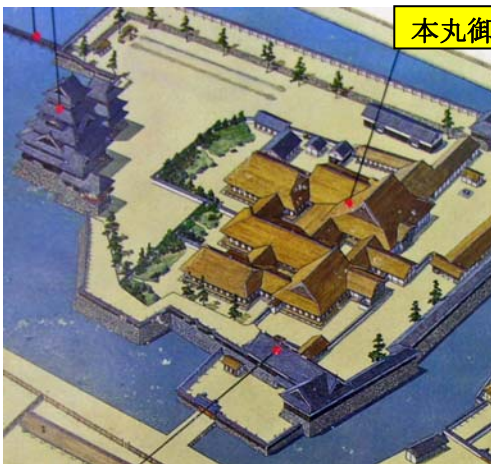
7. 武士に授けた袋はどんな袋だったのでしょうか。次の中から一つ選びなさい。・・・・・・・・・・③

錦の袋を授けて、「これから後二十六夜を祀り、米三石三斗三升三合を焚いて祝うこと。そうしたらお城は必ずさかえようぞ。またこの袋は決してあけてはなりません」といって去りました。

8. 翌朝武士は、美しい女人から言われたことを城主へ申しあげたところ、〇〇〇〇より毎月の例としてお祀りをおこなうようになったという。さて〇〇〇〇にあうものを、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・・・・・①

翌朝八郎三郎がこのことを城主へ申しあげたところ、翌二月の二十六日より毎月の例として祭祀をおこなうようになった。

9. 享保12年（1727）閏正月元日の火災の際、天守が類焼を免れたのは、松本城の守り神様のおかげであると語り継がれている。この火災は、次のうちのどこの火災であったか、一つ選らびなさい。・・・・・・・・・・③



享保12年（1727）の本丸御殿の火事の際に、天守に燃えうつらなかったのは、二十六夜神のご加護だと語り伝えられている。

10. 今でも二十六夜神様は天守6階に祀られていて、毎年11月2日には餅つきをして皆に配り、3日には二十六夜神祭を盛大に行われている。さて、この二十六夜神祭は、どこが主体となりとりおこなっているか、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・・・・・②

古城会の皆さんによって、二十六夜神祭が盛大にとりおこなわれている。

